

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

特発性造血障害に関する調査研究班

および

重点研究：骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究班

平成 20 年度 第 2 回合同班員会議 議事録

日時：平成 21 年 1 月 29 日（木）18:15～20:40

場所：アステラス製薬本社 313 会議室

〒103-8411 東京都中央区日本橋本町 2-3-11

《参加者》小澤、三谷、赤司、内山、岡本、金倉、西村、今井（黒川代理）、澤田、朝長、宮崎、中尾、中畑、村手、杉田、鈴木、吉田（小澤班事務局）、井澤（三谷班事務局）

<報告事項>

小澤班長から開会の挨拶に引き続き、以下の報告が行われた。

- ・平成 21 年度の研究計画を作成した。また、予算の配分額について検討した。
- ・今年度をもって研究分担者の内山先生と朝長先生が退任されることとなり、来年度からは石川先生、宮崎先生に引き継がれることとなった。
- ・ヒューマンサイエンス振興財団への応募は本年度なかった。
- ・昨年度発行した MDS 診断アトラスは非常に好評であるため、できるだけ多くの先生方に利用していただくことを考え、日本血液学会ホームページに掲載を依頼する。
- ・本研究班第 2 期の最重要課題として、平成 22 年度末での診療ガイド改訂を予定しているため、先生方には是非その目標に向けて準備を進めて欲しい。

<審議事項>

●再生不良性貧血領域（中尾先生）

以前からの継続課題である新規発症例の全例登録は、血液疾患登録が日本血液学会の認定要件になったため少しずつ増えている。現在のところ、登録は全体の 2～3 割であろうと推定している。

また、明日の総会で意見を集めたいと思っているが、現在使用されている臨床個人調査票は作成にかかる労力の割には医学的に使える客観的情報が少なく、十分に機能していないと考えられる。このため、調査票の改訂が必要と考えている。明日の総会では問題点を挙げて参加者の意見を聞きたい。

また、PNH 型血球の調査研究を進めているが、PNH 血球陽性例は年齢と共に増えていくことが判ってきた。これは若年者では免疫抑制療法が効くはずの症例でも PNH 血球陰性ケースが存在することを示しており注意が必要である。

また、hnBNP K 抗体が強陽性の場合には免疫抑制療法が効くことも判ってきた。

さらに、移植後ドナー型晩期生着不全症についても研究を進めたが、こうした症例では、ドナーに既に血液異常が見られることが明らかとなった。つまり、このようなケースではドナーに既に subclinical な異常が存在しており、これが移植後顕在化したものと考えられ興味深い。

今後は、以上の研究を進めると共に、サイモグロブリンを使用した再生不良性貧血の至適前処置法について考えていきたい。さらに、サイモグロブリンを使用した再生不良性貧血治療の臨床研究を早急に立ち上げていきたいと考えている。

前回の班会議でも発表した、血小板のみが減少している血球減少症の中に免疫抑制療法が効くケースが見られることが判った。このような症例は再生不良性貧血の一亜型である可能性がある。このような症例での PNH 血球測定を行っていきたい。

小澤班長： 調査票改訂作業は実際にどのようにして進めていく計画か？

杉田先生： こちらで素案を出した上で、厚労省に働きかけたい。

三谷先生： 血液学会の疾患登録だと中途終了ができないため、例えば DLBCL の組織型入力に対応できていない。何とかならないか？

中尾先生： その点については4月以降になるが、何とか対応できるようにしたい。

中畑先生： 小児における pure platelet aplasia を以前報告したことがある。この血小板減少症はそれに似ている。

●疫学班(杉田先生)

臨床個人調査票の解析を行ったところ、再生不良性貧血以外の類縁疾患の混入が予想外に多いことが判明した。また、調査票は様々なデータの記入を求めているが、無回答の項目が多いのも気になった。例えば HAM 試験は行っていないものが多く、骨髄検査でさえ無回答が多い。染色体検査の結果を記入してあるものも少なかった。

朝長先生： これらの調査票は、専門家が見てあまりに不備が多い場合は却下されているはずだが、実際はどうなのか？

杉田先生： 専門家がいらない県では事実上素通りしていると思われる。

中尾先生： やはり病理検査報告を添付するなどして、客観的なデータを記載しないとイケないと思う。改訂作業が必要。

●赤芽球癆(澤田先生)

今期は ABO 不適合幹細胞移植後 PRCA についての研究準備を行った。明日の総会で研究案を提案したい。データは移植学会のデータベースを使いたい。

中畑先生： 小児科も是非メンバーに入れて欲しいので、メンバーを推薦します。

また、日本人の LGL の正常値については現在予備データを集積しているところであり、もう少しデータが揃ったら本格的に研究を開始したい。

●不応性貧血領域(内山先生)

現在 MDS 班では①MDS 症例のセントラルレビュー・前方視的登録、②検体バンク事業、③小児 MDS の評価などについての臨床研究が動いているが、①については現状では追跡調査が極めて困難であるため、データ管理の一元化が必要と考えている。また、個人情報のセキュリティを高めるためデータ送付は郵送に切り替える、データ送付は6ヶ月毎に変更する、などの運営方法の変更を提案したい。

また、検体バンク事業については現在小川・三谷研究が動いており、昨年からの登録検体が増加して現在 61 検体になっている。しかし、研究期限が 2010 年に迫っており期限後は検体を廃棄する必要があるため、それに間に合うように検体の活用計画を立て直す必要がある。

三谷先生： そろそろ 61 例の解析研究を本格的に始める必要があり、獨協では

microRNA の解析を進めていきたいと考えている。明日の総会ではその中間報告を行いたい。

小澤班長：これから集める分については計画変更を行って期限延長ができないか。

三谷先生：変更に要する手続きの煩雑さを考えると、難しいと思います。

小澤班長：検体バンク事業を再スタートさせることはできないか。非常にもったいない。

金倉先生：倫理委員会の厳格さが大学によって異なるのが最大の問題ですね。

○追加発言(朝長先生)

今回は、MDSに対するタクロリムスの有効性について検討した。10例中2例に効果が認められたが、腎障害などの副作用も多く、必ずしも優れた治療法というわけではなさそうだ。

中尾先生：こういう症例は ATG をやっていただくと良いのではないか。

朝長先生：この症例は hyperplastic marrow であり、再生不良性貧血として ATG をやるには無理があった。

○追加発言(村手先生)

今期は各種腫瘍における WT1 高発現の機序について解析した。固形腫瘍では GATA2 が関係していそう。

○追加発言(今井先生)

今期は AML1 による NFκB シグナルの制御について検討した。詳細は明日の総会で発表したい。

三谷先生：AML1-/- で NFκB が異常になっているとすると、CBF-MDS ではベルケードが使えるのでしょうか？

今井先生：そうかもしれません。

●鉄過剰症臨床研究・骨髄不全症意識調査(小澤班長、鈴木)

鉄過剰症臨床研究は、おかげさまで多数の施設から参加の表明をいただき、現在 IRB 申請中である。現段階では自治医大と埼玉医大で IRB を通過しており、鉄キレート研究については自治医大で1例登録済である。鉄動態研究は現在登録準備中である。今後是非先生方の御協力を御願いたい。

また、今回新たに骨髄不全症の意識調査を計画した。内容については既に各疾患担当の先生方の御意見を伺っているが、この場でも御意見をいただきたい。

なお、計画当初は各施設における MDS の頻度調査などを予定していたが、厚労省の倫理指針を確認したところ、個々の患者情報にアクセスする必要のある研究は、例えそれが連結不可能化されて統計資料としてまとめられて中央施設に送られる場合であっても、IRB を通す必要があるということが判った。このため、カルテを参照する必要のない意識調査という形で研究を行うことにした。

岡本先生：この年齢の分け方はガイドラインに沿ったものと思うが、必ずしもそれに従っていない施設も多いと思われる。年齢についてはもう少し柔軟に対応できるようにフォーマットを改めたらどうか。また MDS については臍帯血移植を含める必要があるのでは。

中尾先生：MDS の②の部分は、低形成 MDS に限らなくても良いと思う。「低形成」という言葉は外してみてもどうか。また、意識調査についてはその目的と意義を明記

しておいた方が良くと思う。

鈴木：検討します。

●MDS 重点研究班(三谷先生)

本年度の研究実績および来年度の研究計画についてはスライドの通りである。

登録検体を使用した研究については、研究期限が 2010 年に迫っているので早急に進めていく必要があるが、明日の総会ではその研究案について提案したい。

●溶血性貧血領域(PNH)(金倉先生)

今回は Eculizumab 第2相治験の結果を報告したい。この結果を基に承認手続きが進められると思われるが、髄膜炎菌ワクチンの問題が残っている。日本で承認されていないワクチンである以上、Eculizumab 認可の際は、髄膜炎菌ワクチン接種は無しということになると思われる。

○追加発言(西村先生)

J-PIG については法人格の取得が重要な課題であり、現在その方向で動いている。主に臨床研究を行う形で運営していきたい。I-PIG では Web site 作成の準備をしているところである。

●原発性骨髄線維症領域(赤司先生)

MF については症例登録を継続しており、現在 432 例が登録されている。現在その結果を用いて予後解析を行っており、今回は IWG から提唱された予後分類を我々のデータベースに当てはめてみた。その結果、Int-1 と Int-2 の予後が分かれなことが判った。我々のものでは低リスク症例が 5.3%しかないことや Hb 10 以下の症例や blast 多数の症例が多いのが原因かもしれない。日本では MF 診断時病勢がかなり進行している症例が多いのかもしれない。

朝長先生：低リスク症例の予後がずいぶん良いようだ。MDS(RA)でも同様の傾向が出ている。

基礎的検討では、JAK2 mutant マウスの作成を進めているが、変異が入っても線維症を発症するまで 1 年近くかかり、ようやく線維症マウスができたところである。解析はこれからです。

朝長先生：レナリドマイドの臨床治験はいかが？

小澤班長：現在 MDS と Myeloma の治験に集中しているようで、余裕ができたなら着手するということのようにです。

●造血幹細胞移植領域(岡本先生)

今期は、まず高齢者 MDS に対する予後予測スコアリングシステムについて検討を行ったが、なかなかうまくいかない。現在は MDS に対する同種造血幹細胞移植後の非造血器腫瘍発症の実態調査、MDS に対する同種造血幹細胞移植後の比較的長期生存例の QOL 調査などを計画している。

●小児科領域(中畑先生)

学会とタイアップした症例登録は順調に進んでいる。MDS では 453 例がセントラルレビューに入っており、今回はその予後調査について報告したい。また、再生不良性貧血では、治療研究会で免疫抑制療法がどの程度効くのか多変量解析を行った

ので、その結果を報告したい。白血球数、発症後の月数、男女差が有意因子として挙げられている。

そのほか、血液疾患の iPS 細胞を作成して、疾患の病態解明に役立てたいと思っている。

<終わりに>

最後に今期にて退任される内山先生と朝長先生より退任の御挨拶をいただき、閉会した。

特発性造血障害に関する調査研究班（平成 20-22 年度）
班長（研究代表者）：小澤 敬也 kozawa@ms2.jichi.ac.jp
事務局：自治医科大学内科学講座血液学部門
鈴木 隆浩 tasuzuki@jichi.ac.jp
（経理事務担当）吉田 元子 motokoy@jichi.ac.jp
連絡先： TEL 0285-58-7353
FAX 0285-44-5258

資料 3. 班会議総会プログラム

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

特発性造血障害に関する調査研究

(研究代表者 小澤敬也)

および

重点研究

骨髓異形成症候群に対する

病態解明・治療法の開発に関する研究

(研究代表者 三谷絹子)

平成 20 年度 第 1 回合同班会議総会

平成 20 年 8 月 1 日(金) 13:00~17:50

※12:00 から昼食を御用意します。

アステラス製薬本社 2 階ホール

(東京都中央区日本橋本町 2-3-11)

平成 20 年度 第 1 回合同班員会議

平成 20 年 8 月 1 日(金) 9:30~12:00

アステラス製薬本社 313 会議室

(別途御案内の先生方には、御出席をお願い致します。)

事務局

《特発性造血障害に関する調査研究班》

自治医科大学 内科学講座血液学部門

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL: 0285-58-7353 / FAX: 0285-44-5258

URL: <http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan>

E-mail: kozawa@ms2.jichi.ac.jp (小澤敬也)

tasuzuki@jichi.ac.jp (鈴木隆浩)

motokoy@jichi.ac.jp (吉田元子)

《重点研究：骨髓異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究班》

獨協医科大学 内科学 (血液)

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

TEL: 0282-86-1111 (内線 2744) / FAX: 0282-86-5630

E-mail: kinukom-tky@umin.ac.jp (三谷絹子)



御発表に際して

- (1) CD、あるいはUSBメモリによるデータを受付に御提出下さい。
- (2) 配布資料は、表紙右肩に□で囲んだ演題番号を記したものを、100部御用意下さい。
- (3) 割り当て時間は発表と討論を含みますので、討論の時間を残すようにコンパクトに御発表下さい

会場の御案内



アステラス製薬株式会社本社

東京都中央区日本橋本町2-3-11

東京メトロ三越前駅

A7出口から3～4分（銀座線プラットホーム寄り）

※A6出口は閉鎖中。

半蔵門線を御利用の方は、上記出口を御利用下さい。

東京メトロ小伝馬町駅3番出口から10分

JR 神田駅東口出口から15分

JR 新日本橋駅3番出口から10分

※駐車場はございませんので、お車での御来場は御遠慮下さい。

次回班会議予定

合同班員会議 : 平成21年1月29日(木) 夜

合同班会議総会 : 平成21年1月30日(金) 朝～夕方

造血障害班ホームページ

当研究班では、皆様への情報の御提供のため、ホームページを開設しております。
どうぞ御利用下さい。

URL	http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan/
ID	zoketsu
Password	jichi

プログラム

- | | | |
|----------|--------------------|----------|
| 開会の挨拶 | (5分) (13:00-13:05) | 小澤敬也 |
| 厚生労働省 挨拶 | (5分) (13:05-13:10) | 健康局疾病対策課 |

- | | | |
|--|---------------------|------|
| 1 特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告
自治医科大学 内科学講座血液学部門 | (10分) (13:10-13:20) | 小澤敬也 |
|--|---------------------|------|

再生不良性貧血領域 座長 中尾眞二

- | | | |
|--|---------------------|------------------------------|
| 2 <u>再生不良性貧血に関する3年間の研究計画</u> ～骨髄不全における免疫病態診断法の確立～ | (15分) (13:20-13:35) | |
| ①成人再生不良性貧血における免疫病態マーカーの意義を明らかにするための多施設共同前方視的臨床試験 | | |
| ②免疫抑制療法(サイモグロブリンとシクロスポリン)の効果予測におけるPNH型血球・自己抗体検出の意義 | | |
| ③巨核球減少を伴う血小板減少症におけるPNH型血球・自己抗体検出の意義 | | |
| 金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学 | | ○中尾眞二、杉森尚美、高松博幸
石山 謙、山崎宏人 |

- | | | |
|---|--------------------|---------------------------------------|
| 3 再生不良性貧血の臨床調査個人票の解析: 第二報
東邦大学医学部 社会医学講座衛生学
慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学
金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学
埼玉医科大学医学部 公衆衛生学
自治医科大学 内科学講座血液学部門 | (5分) (13:35-13:40) | ○杉田 稔
島田直樹
中尾眞二
永井正規
小澤敬也 |
|---|--------------------|---------------------------------------|

- | | | |
|--|--------------------|------|
| 4 <u>赤芽球癆に関する3年間の研究計画</u>
秋田大学医学部 血液・腎臓内科 | (5分) (13:40-13:45) | 澤田賢一 |
|--|--------------------|------|

- | | | |
|---|--------------------|---|
| 5 悪性リンパ腫に合併した赤芽球癆の臨床病理学的特徴
秋田大学医学部 血液・腎臓内科
熊本医療センター 血液内科
広島大学原爆放射線医学科学研究所 血液内科
国立がんセンター中央病院 血液内科
東京医科歯科大学 血液内科
神戸大学医学部 血液内科
金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学
NTT 関東病院 血液内科
昭和大学藤が丘病院
自治医科大学 内科学講座血液学部門 | (5分) (13:45-13:50) | 澤田賢一、○廣川 誠、藤島直仁
河野文夫
木村昭郎
渡辺 隆
新井文子
松井利充
中尾眞二
浦部晶夫
小峰光博
小澤敬也 |
|---|--------------------|---|

不応性貧血領域 座長 朝長万左男

- | | | |
|---|--------------------|------------|
| 6 <u>不応性貧血に関する3年間の研究計画</u>
京都大学血液・腫瘍内科 | (5分) (13:50-13:55) | 内山 卓、○石川隆之 |
|---|--------------------|------------|

- | | | |
|--|---------------------|------------|
| 7 再生不良性貧血/骨髄異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究 | (10分) (13:55-14:05) | |
| 京都大学血液・腫瘍内科 | | 内山 卓、○石川隆之 |
| 埼玉医科大学国際医療センター造血管腫瘍科 | | 松田 晃 |
| 川崎医科大学検査診断学 | | 通山 薫 |

- 8 FAB分類の不応性貧血における日本・中国・ドイツ例の臨床像の比較および今後の研究計画 (10分) (14:05-14:15)
 長崎大学 原研内科 朝長万左男、○波多智子、宮崎泰司
 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 松田 晃、別所正美
 埼玉医科大学 血液内科 荒関かやの、陣内逸郎
- 9 本邦における染色体異常5q⁻を有するMDSの実態調査(総括) (10分) (14:15-14:25)
 川崎医科大学検査診断学 ○通山 薫、田坂大象
 川崎医療短期大学 岸本光代
 京都大学血液腫瘍内科 内山 卓
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也
- 10 骨髄異形成症候群の関連遺伝子転写調節機序の解明 (10分) (14:25-14:35)
 名古屋大学医学部保健学科 村手 隆
- 11 転写因子の異常による造血器疾患発症機構の解析 (10分) (14:35-14:45)
 東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 ○黒川峰夫、合山 進、市川 幹
 半下石 明、今井陽一

重点研究「骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究」班 座長 三谷絹子

- 12 班長報告 (10分) (14:45-14:55)
 獨協医科大学 内科学(血液) 三谷絹子
- 13 「骨髄異形成症候群に対する検体集積事業ならびに遺伝子解析研究」進捗状況 (10分) (14:55-15:05)
 京都大学 血液・腫瘍内科 内山 卓、○石川隆之
 獨協医科大学 内科学(血液) 三谷絹子、山形哲也
- 14 MDS患者に認めた新規TEL融合遺伝子の解析 (10分) (15:05-15:15)
 名古屋大学血液・腫瘍内科 直江知樹、○富田章裕、杉本 匠
- 15 MDSにおけるゲノム解析と新規標的分子の同定 (10分) (15:15-15:25)
 東京大学医学部附属病院がんゲノムクスプロジェクト 小川誠司、○真田 昌



15:25~15:45

coffee break



骨髄不全症候群における鉄過剰症と鉄キレート療法 座長 小澤敬也

- 16 輸血後鉄過剰症に対するデフェラシロクスの有用性に関する臨床研究の提案 (15分) (15:45-16:00)
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也、○鈴木隆浩
 旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学 高後 裕
- 17 骨髄不全症候群患者における体内鉄動態に関する臨床研究の提案 (5分) (16:00-16:05)
 自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也、○鈴木隆浩
 旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学 高後 裕
- 18 N T B I 測定の実況と non-metal HPLC を用いた定量法 (5分) (16:05-16:10)
 旭川医科大学内科学講座 消化器・血液腫瘍制御内科学 ○生田克哉、高後 裕
 同 消化管再生修復医学講座 佐々木勝則

骨髄線維症領域

座長 赤司浩一

- 19 **骨髄線維症に関する3年間の研究計画** (5分) (16:10-16:15)
九州大学 病態修復内科学 赤司浩一
- 20 **本邦の原発性骨髄線維症の臨床像** (10分) (16:15-16:25)
九州大学 病態修復内科学 赤司浩一、竹中克斗
国立病院機構大牟田病院 原田実根
久留米大学 血液内科 岡村 孝
宮崎大学 消化器血液内科 幣 光太郎、○下田和哉

溶血性貧血領域

座長 金倉 譲

- 21 **PNH研究の進捗状況と3年間の研究計画** (5分) (16:25-16:30)
大阪大学 血液・腫瘍内科 金倉 譲
- 22 **PNH Registryと日米共同研究について** (5分) (16:30-16:35)
大阪大学 血液・腫瘍内科 西村純一
- 23 **Aegis 臨床試験後の我が国での開発日程とJ-PIGについて** (5分) (16:35-16:40)
昭和大学藤が丘病院 小峰光博
- 24 **I-PIGと班研究 (HMGA2 解析を含めた良性腫瘍性拡大のメカニズム解明) について** (10分) (16:40-16:50)
大阪大学微生物病研究所 木下タロウ
- 25 **自己免疫性溶血性貧血に関する3年間の研究計画** (10分) (16:50-17:00)
自治医科大学 地域医療学センター 梶井英治、○亀崎豊実、小山田 隆、坂本敦司
自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也
昭和大学藤が丘病院 小峰光博

小児科領域

座長 中畑龍俊

- 26 **小児科領域に関する3年間の研究計画** (5分) (17:00-17:05)
京都大学大学院医学系研究科発達小児科学 中畑龍俊
- 27 **小児血液学会疾患登録事業を一次調査とする再生不良性貧血など造血障害の疫学データベース構築** (10分) (17:05-17:15)
東邦大学輸血部 小原 明
- 28 **再生不良性貧血の非血縁者間移植におけるドナー選択** (10分) (17:15-17:25)
名古屋大学小児科 ○谷ヶ崎 博、高橋義行、小島勢二
東邦大学輸血部 小原 明
京都大学小児科 中畑龍俊

造血幹細胞移植領域

座長 岡本真一郎

29

造血幹細胞移植領域に関する3年間の研究計画
慶應義塾大学医学部内科血液研究室

(15分) (17:25-17:40)

岡本真一郎

事務連絡 (5分) (17:40-17:45)

事務局 鈴木隆浩

閉会の挨拶 (5分) (17:45-17:50)

小澤敬也

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

特発性造血障害に関する調査研究

(研究代表者 小澤敬也)

および

重点研究

骨髄異形成症候群に対する

病態解明・治療法の開発に関する研究

(研究代表者 三谷絹子)

平成 20 年度 第 2 回合同班会議総会

平成 21 年 1 月 30 日(金) 9:00~17:10

アステラス製薬本社 2 階ホール

(東京都中央区日本橋本町 2-3-11)

平成 20 年度 第 2 回合同班員会議

平成 21 年 1 月 29 日(木) 18:15~

アステラス製薬本社 313 会議室

(別途御案内の先生方には、御出席をお願い致します。)

事務局

《特発性造血障害に関する調査研究班》

自治医科大学 内科学講座血液学部門

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL: 0285-58-7353 / FAX: 0285-44-5258

URL: <http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan>

E-mail: kozawa@ms2.jichi.ac.jp (小澤敬也)

tasuzuki@jichi.ac.jp (鈴木隆浩)

motokoy@jichi.ac.jp (吉田元子)

《重点研究：骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究班》

獨協医科大学 内科学(血液)

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

TEL: 0282-86-1111 (内線 2744) / FAX: 0282-86-5630

E-mail: kinukom-tky@umin.ac.jp (三谷絹子)

御発表に際して

- (1) CD、あるいはUSBメモリによるデータを受付に御提出下さい。
- (2) 配布資料は、表紙右肩に□で囲んだ演題番号を記したものを、120部御用意下さい。
- (3) 割り当て時間は発表と討論を含みますので、討論の時間を残すようにコンパクトに御発表下さい

会場の御案内



アステラス製薬株式会社本社

東京都中央区日本橋本町2-3-11

東京メトロ三越前駅

A7出口から3～4分（銀座線プラットフォーム寄り）

※A6出口は閉鎖中。

半蔵門線を御利用の方は、上記出口を御利用下さい。

東京メトロ小伝馬町駅3番出口から10分

JR神田駅東口出口から15分

JR新日本橋駅3番出口から10分

※駐車場はございませんので、お車での御来場は御遠慮下さい。

次回班会議予定

《平成21年度第1回合同班員会議・班会議総会》

合同班員会議 : 平成21年7月24日(金) 午前

合同班会議総会 : 平成21年7月24日(金) 午後

造血障害班ホームページ

当研究班では、皆様への情報の御提供のため、ホームページを開設しております。

どうぞ御利用下さい。

URL	http://www.jichi.ac.jp/zoketsushogaihan/
ID	zoketsu
Password	jichi

プログラム

開会の挨拶 (5分) (9:00-9:05)

小澤敬也

厚生労働省 挨拶 (5分) (9:05-9:10)

健康局疾病対策課

1 特発性造血障害に関する調査研究班 班長報告 (10分) (9:10-9:20)

再生不良性貧血領域

座長 中尾眞二

2 今年度の研究進捗状況 (5分) (9:20-9:25)
金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 中尾眞二

3 再生不良性貧血の新規申請患者における臨床的特徴 ～認定基準の観点から～ (10分) (9:25-9:35)
東邦大学医学部 社会医学講座衛生学 ○杉田 稔
慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学 島田直樹
金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 中尾眞二
埼玉医科大学医学部 公衆衛生学 永井正規
自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也

4 免疫病態マーカーの意義を明らかにするための臨床試験 ①現在施行中の臨床試験の進捗状況、
②サイモグロブリンを用いた新しい臨床試験の提案 (10分) (9:35-9:45)
金沢大学 医薬保健研究域 細胞移植学 中尾眞二、○山崎宏人、杉森尚美、石山 謙

5 巨核球減少性血小板減少症における免疫病態マーカー検出の意義 (5分) (9:45-9:50)
金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 中尾眞二、○石山 謙、杉森尚美、山崎宏人

6 同種造血幹細胞移植後赤芽球病の調査研究に関する提案 (10分) (9:50-10:00)
秋田大学 血液・腎臓・膠原病内科学 澤田賢一、○廣川 誠、藤島直仁
名古屋大学 造血細胞移植情報管理学 鈴木律朗
金沢大学 細胞移植学 中尾眞二
慶応大学 血液内科 岡本真一郎
岡山大学 血液・腫瘍・呼吸器内科 谷本光音
北海道大学 癌治療診断治療学 今村雅寛
N T T 関東病院 血液内科 浦部晶夫
自治医科大学 血液内科 小澤敬也

不応性貧血領域

座長 内山 卓

7 今年度の研究進捗状況 (5分) (10:00-10:05)
京都大学 内科学講座 血液・腫瘍内科学 内山 卓

8 再生不良性貧血/骨髄異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査研究 (10分) (10:05-10:15)
京都大学 血液・腫瘍内科 内山 卓 ○石川隆之
埼玉医科大学 国際医療センター造血器腫瘍科 松田 晃
川崎医科大学 検査診断学 通山 薫
自治医科大学 内科学講座血液学部門 小澤敬也

- 9 「再生不良性貧血／骨髓異形成症候群の前方視的症例登録・セントラルレビュー・追跡調査」登録症例における骨髓検査の実態 (10分) (10:15-10:25)
- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 | ○松田 晃、別所正美 |
| 埼玉医科大学病院 血液内科 | 荒関かやの、陣内逸郎 |
| 川崎医科大学 検査診断学 | 通山 薫 |
| 聖路加病院 小児科 | 真部 淳 |
| 山梨大学 血液内科 | 小松則夫 |
| 長崎大学 原研内科 | 波多智子、宮崎泰司、朝長万左男 |
| 京都大学医学研究科 血液・腫瘍内科学 | 石川隆之、内山 卓 |
| 金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 | 山崎宏人、中尾真二 |

- 10 骨髓異形成症候群に対するタクロリムス投与の検討 (10分) (10:25-10:35)
- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 附属原爆後障害医療研究施設 | |
| 分子医療部門分子治療研究分野 (原研内科) | 朝長万左男、○波多智子、宮崎泰司 |

座長 朝長万左男

- 11 骨髓異形成症候群由来細胞株 MDS-L に対する lenalidomide の影響 (第2報) (10分) (10:35-10:45)
- | | |
|--------------|-----------------|
| 川崎医科大学 検査診断学 | 通山 薫、○松岡亮仁、近藤敏範 |
| | 辻岡貴之、田坂大象 |
- 12 MDS 関連遺伝子 AML1/Runx1 による NF- κ B シグナルの制御 (10分) (10:45-10:55)
- | | |
|------------------------|-----------------|
| 東京大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 | ○黒川峰夫、今井陽一、中川正宏 |
|------------------------|-----------------|
- 13 AML1/RUNX1 点変異による MDS/AML 発症機構 (10分) (10:55-11:05)
- | | |
|--------------------|----------------|
| 広島大学原研 血液内科 | ○木村昭郎、丁 曄、原田浩徳 |
| 広島大学原研 国際放射線情報センター | 原田結花 |
- 14 白血病および固形腫瘍細胞株における WT1 遺伝子高発現機序の解明 (10分) (11:05-11:15)
- | | |
|-----------------|----------------------|
| 名古屋大学医学部 保健学科 | ○村手 隆、古畑彩子、高木 明、小嶋哲人 |
| 名古屋大学医学部 血液腫瘍内科 | 安部明弘、直江知樹 |

骨髓不全症全般

座長 小澤敬也

- 15 骨髓不全症におけるテロメア制御遺伝子異常 (10分) (11:15-11:25)
- | | |
|-------------|------------|
| 日本医科大学 血液内科 | 檀 和夫、○山口博樹 |
|-------------|------------|
- 16 造血細胞における ROS センサーとしての HIF-1 の機能解析：HIF-1 の機能破綻による造血障害の可能性 (10分) (11:25-11:35)
- | | |
|-----------------|------------|
| 山梨大学医学部 血液・腫瘍内科 | 小松則夫、○桐戸敬太 |
|-----------------|------------|
- 17 鉄過剰症に関する臨床研究 (2課題) -参加のお願いと現状報告- (5分) (11:35-11:40)
- | | |
|----------------------|------------|
| 自治医科大学 内科学講座血液学部門 | 小澤敬也、○鈴木隆浩 |
| 旭川医科大学 消化器・血液腫瘍制御内科学 | 高後 裕 |
- 18 Non-metal HPLC を用いた NTBI 測定 of 感度の改善および健康人血清における測定 (10分) (11:40-11:50)
- | | |
|----------------------|------------|
| 旭川医科大学 消化器・血液腫瘍制御内科学 | 高後 裕、○生田克哉 |
| 旭川医科大学 消化管再生修復医学講座 | 佐々木勝則 |
- 19 骨髓不全症の診療に関する意識調査の提案 (10分) (11:50-12:00)
- | | |
|---------------------|------------|
| 自治医科大学 内科学講座血液学部門 | 小澤敬也、○鈴木隆浩 |
| 京都大学 内科学講座血液・腫瘍内科学 | 内山 卓、石川隆之 |
| 金沢大学大学院医学系研究科 細胞移植学 | 中尾真二 |
| 九州大学 病態修復内科学 | 赤司浩一 |



12:00~13:00

lunch time



骨髄線維症領域

座長 赤司浩一

- 36 今年度の研究進捗状況 (5分) (13:00-13:05)
九州大学 病態修復内科学 赤司浩一
- 37 本邦の原発性骨髄線維症の臨床像 (10分) (13:05-13:15)
九州大学 病態修復内科学 赤司浩一、竹中克斗
国立病院機構大牟田病院 原田実根
久留米大学 血液内科 岡村 孝
宮崎大学 消化器血液内科 髙光太郎、○下田和哉

重点研究「骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法の開発に関する研究」班 座長 三谷絹子

- 20 班長報告 (10分) (13:15-13:25)
獨協医科大学内科学(血液) 三谷絹子
- 21 遺伝子解析研究のための検体集積事業 (10分) (13:25-13:35)
京都大学 血液・腫瘍内科 内山 卓、○石川隆之
獨協医科大学 内科学(血液) 三谷絹子、山形哲也
- 22 MDSと白血病におけるmicroRNA発現の比較 -検体集積事業による遺伝子解析研究の提案- (10分) (13:35-13:45)
獨協医科大学 内科学(血液) 三谷絹子、○山形哲也
- 23 MRIによる心鉄過剰症の評価 (5分) (13:45-13:50)
東京医科大学 内科学第1講座 ○大屋敷一馬
東京医科大学 放射線科 朴 辰浩、赤田莊市、徳上公一
- 24 経口除鉄剤(デフェラシロクス)による抗白血病効果 (10分) (13:50-14:00)
東京医科大学 内科学第1講座 ○大屋敷一馬、岡部聖一、田内哲三
東京医科大学難治性免疫疾患研究センター 大屋敷純子
- 25 MDS由来CD34陽性白血球細胞におけるリン酸化蛋白の同定 (10分) (14:00-14:10)
東京女子医科大学血液内科 泉二登志子、○寺村正尚、風間啓至
- 26 MDS患者に認めた新規TEL融合遺伝子の解析 (10分) (14:10-14:20)
名古屋大学 血液・腫瘍内科学 直江知樹、○富田章裕、杉本 匠
- 27 7q欠失と協調するエピゲノム制御遺伝子の同定: 遺伝子改変マウスの解析から (10分) (14:20-14:30)
広島大学原爆放射線医学研究所 稲葉俊哉、○麻生博也、本田浩章
- 28 MDS/MPDにおけるc-Cbl変異の解析 (10分) (14:30-14:40)
東京大学医学部附属病院がんゲノミクスプロジェクト 小川誠司、○真田 昌

- 29 今年度の研究進捗状況 (5分) (14:40-14:45)
大阪大学 血液・腫瘍内科 金倉 譲
- 30 PNH研究 (Eculizumab 臨床試験、I-PIG、J-PIG、PNH Registry) の近況報告 (15分) (14:45-15:00)
大阪大学 血液・腫瘍内科 金倉 譲
《追加発言1》
Eculizumabの本邦での開発状況とJ-PIGの近況
昭和大学藤が丘病院 小峰光博
《追加発言2》
I-PIGの近況とPNH Registryの進捗状況
大阪大学 血液・腫瘍内科 西村純一
- 31 本邦PNH患者におけるヒト化抗マウスC5抗体 (Eculizumab) の有効性ならびに安全性評価試験 : AEGIS第2相臨床試験 (10分) (15:00-15:10)
大阪大学 血液・腫瘍内科 ○金倉 譲、西村純一
東京医大 血液内科 大屋敷一馬
福島県立医大 第1内科 七島 勉
慶応大学 血液感染リウマチ科 岡本真一郎
東海大学 血液内科 安藤 潔
筑波大学 血液内科 二宮治彦
熊本大学 感染免疫診療部 川口辰哉
金沢大学 血液内科 中尾真二
和歌山県立医大 血液内科 中熊秀喜
大阪大学微研 免疫不全 木下タロウ
自治医科大学 血液科 小澤敬也
昭和大学藤が丘病院 内科血液 小峰光博



15:10~15:30

coffee break



- 32 発作性夜間血色素尿症患者におけるHMGA2の発現について (10分) (15:30-15:40)
大阪大学微生物病研究所 免疫不全 木下タロウ、○村上良子
大阪府立成人病センター研究所 免疫 井上徳光
大阪大学医学部 血液腫瘍内科 金倉 譲、西村純一
福島県立医科大学 第一内科 七島 勉、野地秀喜
- 33 発作性夜間血色素尿症 (PNH) 関連の造血障害とNKG2D介在性免疫 (10分) (15:40-15:50)
和歌山県立医大 血液内科 ○中熊秀喜、花岡伸佳
熊本大学 感染免疫診療部 川口辰哉
熊本大学 血液内科 堀川健太郎
熊本大学 輸血・細胞治療部 米村雄士
- 34 未熟網赤血球の指標としてのCD71 (トランスフェリン・リセプター) の意義 : PNH症例における解析 (10分) (15:50-16:00)
筑波大学 血液内科 ○千葉 滋、大越 靖、長谷川雄一、二宮治彦
- 35 内科・小児科における赤血球結合IgG正常値の検討 (10分) (16:00-16:10)
自治医科大学地域医療学センター 梶井英治、○亀崎豊実

造血幹細胞移植領域

座長 岡本真一郎

- 38 今年度の研究進捗状況 (5分) (16:10-16:15)
慶應義塾大学医学部 内科血液研究室 岡本真一郎
- 39 慢性GVHDの診断基準の検討 (10分) (16:15-16:25)
慶應義塾大学医学部 内科血液研究室 岡本真一郎

小児科領域

座長 中畑龍俊

- 40 今年度の研究進捗状況 (5分) (16:25-16:30)
京都大学大学院医学系研究科 発達小児科学 中畑龍俊
- 41 日本小児血液学会疾患登録事業を一次調査とする再生不良性貧血など造血障害の疫学データベース構築(第2報) (10分) (16:30-16:40)
東邦大学大森病院 輸血部 ○小原 明
名古屋大学大学院医学系研究科 小児科 小島勢二
京都大学大学院医学系研究科 発達小児科学 中畑龍俊
- 42 小児MDS セントラルレビュー症例の予後 (10分) (16:40-16:50)
京都大学大学院医学系研究科 発達小児科学 中畑龍俊
東邦大学大森病院 小原 明
名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学 小島勢二
聖路加国際病院 小児科 ○真部 淳、平林真介
- 43 小児再生不良性貧血に対する免疫抑制療法の反応予測因子 (10分) (16:50-17:00)
名古屋大学大学院医学系研究科 小児科 小島勢二、○濱 麻人、
東邦大学大森病院 輸血部 小原 明
京都大学大学院医学系研究科 発達小児科学 中畑龍俊

事務連絡 (5分) (17:00-17:05)

事務局 鈴木隆浩

閉会の挨拶 (5分) (17:05-17:10)

小澤敬也

VI. 研究成果の刊行に関する一覧表